

イデックスオイルレポート ~For a week~

2023/3/3作成 (株)新出光

【概況】<ロシア産原油減少~中国景気回復か?>

●24日、ロシアは欧州連合(EU)などによる原油と石油製品輸出価格への上限設定の対抗策として、ロシア西部の港からの原油輸出量を3月から前月比で最大25%削減する計画と報じられた。エネルギー供給不足に陥るとの警戒感がくすぶり、買いが入り相場は**76.32ドル**へ続伸しました。ただ、朝方発表された1月の米個人消費支出(PCE)物価指数は、前年同月比5.4%上昇と、伸び率は7カ月ぶりに加速。米連邦準備制度理事会(FRB)による利上げが長引くとの見方が改めて強まったことから、相場は一時74ドル台前半まで下落する場面もありました。

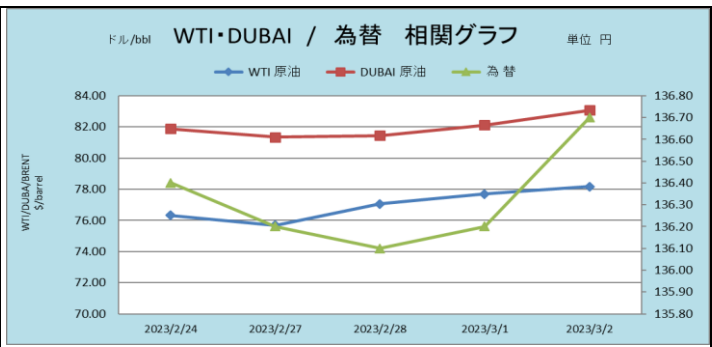
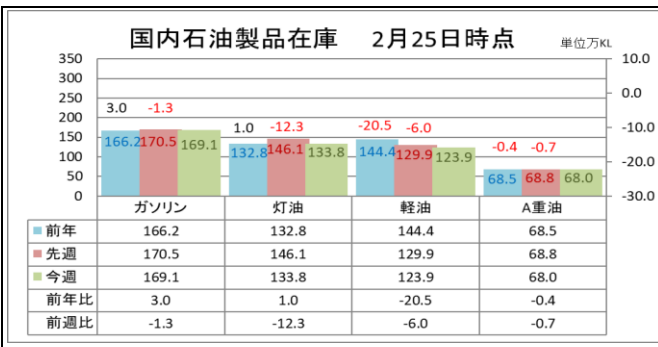
●27日、前週末24日に発表された1月の米個人消費支出(PCE)物価指数の伸び率は、7カ月ぶりに加速。根強いインフレ圧力を示す経済指標が相次いでいることを念頭に、FRBのジェファーソン理事は27日の講演で、金融政策が十分に景気抑制的ではないリスクがあると説明しました。FRBが利上げ局面を長期化させるとの観測が強まる中、景気に悪影響が及び、エネルギー需要が減退するとの連想から売りが優勢し相場は**75.68ドル**へ下落しました。

●28日、ロイター通信は関係筋の話として、2月のロシア西海岸からの中国への原油輸出が前月に比べ増加したと報じました。翌3月1日に公表される2月の中国製造業購買担当者景気指数(PMI)が強めの内容になるとの予想もあり、中国が新型コロナウイルスの感染拡大を徹底的に抑え込む「ゼロコロナ」対策を緩和したことで、同国のエネルギー需要が拡大するとの期待感が相場を支え**77.05ドル**へ反発しました。

●1日、この日発表された一連の中国経済指標は景気回復を裏付ける内容。中国国家统计局発表の2月の製造業購買担当者景気指数(PMI)は前月比2.5ポイント上昇の52.6。中国メディアの財新と米S&Pグローバルが発表した製造業PMIも51.6と、いずれも景気の拡大・縮小を判断する節目となる50を上回りました。新型コロナウイルス感染拡大を徹底する「ゼロコロナ」対策の緩和により中国の景気が上向いており、原油需要が高まるとの見方から買いが優勢となり相場は**77.69ドル**へ続伸しました。

●2日、中国国家统计局が前日発表した2月の製造業購買担当者景気指数(PMI)は52.6となり、前月から大幅に上昇。景気の拡大・縮小を判断する節目の50を2カ月連続で上回りました。これを受け、世界最大の石油輸入国である中国のエネルギー需要見通しに楽観的な見方が広がり相場は**78.16ドル**へ続伸しました。

3月3日 16:00現在 WTI原油 77.96ドル 為替 1ドル 137.70円



	次回元売変動予測	
	3/9~	元売変動予測
ガソリン	→	+0.6
灯油	→	+0.6
軽油	→	+0.6
A重油	→	+0.6
L S A	→	+0.6

【製品卸価格】<灯油は早くも消化売りがスタート>

《今週》今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストはサウジ調整金込みで「-2.0円」、補助金は、「-17.0円」、都合「-0.3円」の値下げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの27日時点の小売価格平均は167.4円となっております。

《3月4日以降》次回の元売り改定は、原油コストは、「+1.5円」、激変緩和補助金は「-18.0円」の見込みで、都合「+0.6円」の改定の予測となっています。現在市況をリードしている業者は、市況連動玉を持つ業者で元売り月間玉仕入業者は様子を見ている状況です。スポット流通玉の市況については、灯油以外はあまり変動は無いようですが、灯油については気温上昇予測に伴いシーズンオフを意識した売りが厚みを増しているようなので、各地域ごとの市況状況を把握し販売願います。

※原油コスト「+1.5円」
 ※激変緩和補助金「-18.0円」前週比-1.0
 ※現時点での予測です。

【次世代エネルギー】<製造工程での水素利用をLIXILと技術検証>

東京ガス株式会社は、株式会社LIXILと、製造工程での水素利用に向けた技術検証に取り組んできました。このたび、LIXIL国内工場において、世界初となる水素を利用したアルミ材のエージング処理(熱処理)を行い、製品品質に影響がないことを確認しました。政府が掲げる2050年のカーボンニュートラル実現に向けては、「e-methane」による都市ガスの脱炭素化に加えて、沿岸部や都市ガスインフラがないエリア、製造工程で水素が発生する工場等における水素の直接利用等、適材適所でエネルギーを選択することが重要となります。水素は気体としての特性が天然ガス(メタン)と異なることから、天然ガス利用を前提とした製造工程での水素利用には多くの課題があります。東京ガスは、これまで様々な用途に対応した天然ガスバーナーを開発し、低NOx燃焼技術の特許を数多く取得する等、産業界の燃焼技術開発を行ってきました。こうして培った燃焼技術のノウハウを活かして、水素の直接利用に向けた課題解決にも取り組んでいます。

東京ガスとLIXILは、製造工程から発生する副生水素の回収・利用についても検証を進めています。アルミ材を製造するLIXILの国内工場のアルマイト処理工程で、2022年8月にLIXILと共同で実施した検証試験では、発生する水素を90%以上の効率で回収することに成功しました。今後は経済性の向上等に取り組む、回収した水素の利用も含めて、検証を進めていきます。

[出典]

① <https://www.jiji.com/jc/article?k=000000851.000021766&g=prt>